



中国の人権問題は内政問題ではすまない

民族自決とレーニン

第一次世界大戦中の一九一七年のロシア革命中、レーニン率いる

ロシア共和国政権は「無賠償・無併合・民族自決」に基づく即時講和を交戦国に提案。「全ての民族は平等で、民族は自らの運命を自ら決するべき」というのが社会主義の大義。

実際、ブレストリリトフスク条約で、ロシアは第一次世界大戦から離脱、フィンランド、バルト三国、ポーランド、ウクライナの独立に繋がった。

その後、ソ連のロシア共和国からウズベキスタン、カザフスタン等が十五の共和国となり、ソ連の崩壊後独立。

中国の西域では

一方、中国はどうか。西域、チベット、内モ

ンゴル等には漢民族とは異なる言語、宗教をもつ民族が暮らす。ウイグルでは子を親から離し中国語教育。

「夫は強制収容所。妻と子供の家庭に中国共産党員の漢民族男性を送り込まれ擬似的家族生活」と云う報道がテレビや下記URLにあった。

他の記者まで再入国を拒否されるのを恐れ、新聞社はこういう報道は余り流さない。

国連は一九四八年「世界人権宣言」を決議。中国はそれを認めて国連に参加。人権宣言を中国が忠実に守っているかどうかは国際問題。内政干渉と云うのはあたらぬ。

中国「共産党」と云うが、社会主義、共産主義とは縁もゆかりも無いのでは？

あなたはどう思われますか？

https://honcierge.jp/articles/shelf_story/8760

底地（すくじ）ビーチ

沖縄県石垣市川平

二〇二一年十一月



白い砂浜が一キロも続きます。

遠浅で波は穏やか。岸边には松に似た葉をつける木麻黄（モクマオウ）や照葉木（テリハボク）が広い木陰を作っている。

岬の先のボートはダイビングの為の船だろうか。マントに会えるスポットだそう。

静かな砂浜を渚に沿って歩いていると、一、二センチのヤドカリが一斉に動き出した。そして砂浜の穴に潜り込んだ。

西向きのこの底地ビーチに座れば、都会の喧噪を忘れて、東シナ海に沈む夕陽を眺めながら静かに語ることが出来る。

